

平成 26 年 度

## 学 校 評 価 (結 果)

育てたい生徒像

- 1 知・徳・体の調和のとれた感性豊かで至誠の心を持つ生徒
- 2 人権を尊重し、民主的でかつ協和の精神に富んだたくましい生徒
- 3 勤労と責任を重んじ、自主的・自立的に行動できる生徒
- 4 自己のあり方や生き方について考える生徒

徳島県立小松島西高等学校勝浦校

総括評価表

重点課題 1  
「わかる授業の展開と確かな学力の定着」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策		
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定			総合評価	
(全体レベル)  基礎的・基本的な知識・技術を習得させるため、指導方法の工夫・改善を行い、生徒の学力の定着と向上を図る。  (下位組織レベル) ①基礎学力の向上 ②指導技術の向上と評価方法の工夫・改善 ③授業時間の確保	<b>評価指標</b> ①-1 授業の取組に関するアンケートを実施し、生徒の自己評価 80%以上を目標とする。 ①-2 2学期末において、成績不良科目を保持している生徒数が全体の 15%未満を目標とする。	①-1 授業の取組に関するアンケートを実施した結果、学習内容に関する満足度約 70%、技術・技能に関する満足度約 80%であった。 ①-2 2学期末時点の成績不良科目保持者は 46人で、全体の 37.4%であった。	B  C	<b>総合評価</b> 評定 <b>B</b> (所見) 各アンケートをまとめた結果、基礎的・基本的な知識・技術を習得させることを目標に授業を実施することで、授業の学習内容の改善や生徒の学ぶ意欲の向上につながったように思われる。今後、さらに教室内の整備することで、学習に取り組む姿勢も向上させたい。 2学期末における成績不良科目の保持者は全体の約 1/3 で、目標を達成することはできなかった。今後、進級等の条件を達成させるために担任と教科担当者が連携し、粘り強く指導を行っていく必要があると考えられる。 課題の提出状況についても、冬休みの課題の提出割合が一番低いので、今後も根気よく声かけをし、課題を提出させる指導を行っていきたいと考える。	B  ○基礎基本を重視した授業の実施 ○教室など学習環境の整備 ○提出物や授業に取り組む態度についての継続的な指導 ○教員に対しての周知 ○年間学習指導計画の作成 ○学校行事の厳選		
	①-3 長期休業中における課題(5教科)の提出率 100%を目標とする。	①-3 春休み中の課題提出 88.2% 夏休み中の課題提出 90.1% 冬休み中の課題提出 82.7% 平均 87.0%	B				
	②-1 教員相互の授業見学会(仮称)を学期に1回実施し、指導力の向上をはかる。	②-1 学期に1回、授業見学会を実施することができた。計画当初は1日であったが、3学期は4日間実施した。	A				
	②-2 シラバスにおける評価基準(評価方法)を検討し、評価方法の改善を目指す。	②-2 年度当初に各教科主任の先生方を中心に作成し評価方法についても検討を行い作成することができた。	A				
	③ 年間授業実施率 80%以上を目指す。	③ 31HR 実施率 84.7% 32HR 実施率 81.9%	A				
	<b>活動計画</b> ①-1 月末にアンケートを実施して集計結果を各クラスに表示し、生徒の授業に対する意識や学習意欲が向上するよう情報発信をおこなう。	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 月末にアンケートを行う計画であったが、アンケートは6月末、9月末、12月末(合計3回)に実施した。アンケート結果から授業に対する意識を評価することができた。	<b>成果と課題</b> ①-1 アンケートの項目にHRの雰囲気に関すること、時間に遅れないよう心がけていることなどを盛り込み、生徒やクラスの様子についても推測することができた。			<b>学校関係者の意見</b> 基礎学力は、必要不可欠である。将来、進路を保障するためにも学習意欲を高め、自学できるよう継続指導してほしい。また学力を向上させるため、さらにキャリア教育を進めてほしい。	○アンケートの内容や実施時期の検討 ○定期考査に集中できる環境作り ○担任と教科担当教員との連携の継続 ○授業見学会の継続 ○校内研修として、研究授業の実施 ○学校行事の開催時期等の検討 ○自習監督のローテーション作成
	①-2 2学期末で成績不良者が減少するよう、中間考査終了後に成績不良者を対象に集会を実施する。	①-2 考査前の学年集会において、成績不良科目にならないよう提出物を出すこと、授業態度を改め集中して授業に取り組むことなど全体指導を行った。	①-2 成績不良科目になってしまった原因を生徒自身に考えさせ、年度末には単位を習得することができるよう情報発信をしていきたい。			先生方はたいへん努力してくださっている。教科を越えて見学会を実施し、生徒の学習意欲を高めてほしい。	
	②-1 授業見学会後に職員によるアンケートを実施し、職員の指導力及び授業の質の向上につながっているか、検討する。	②-1 授業見学会を行うにあたり、ワークシートを作成して、先生方からの意見やアドバイスを伝達しやすいうように工夫した。	② 生徒にとって「わかる授業」を行うためには教材研究などの準備がたいへん重要になってくると思われる。ICTを活用するなどして生徒に興味・関心を持たせ生徒が意欲的に取り組む授業を計画、実施する必要がある。				
	②-2 各科目におけるシラバスにおいて、評価基準を作成し、ホームページ等で公開する。	②-2 シラバスをホームページで公開することはできなかったが、各教室に履修する教科のシラバスをまとめたファイルを置き、生徒に公開することができた。					
	③ 学校行事の見直しを行い、日程の調整等を徹底し、振替え補充授業を確実に実施する。	③ 定期考査の実施期間、家庭訪問週間の廃止(学期末、長期休業中に実施)も含めて学校行事の見直しを行った。また授業の振替えも実施し、自習の時間数を減らすように努めた。	③ 出張、年休等でどうしても授業変更が必要になるが、できるだけ自習にならないように引き続き振替え補充授業の実施を計画する必要がある。 また、学校行事についても考査などに支障がないよう計画していきたい。			学校行事の見直しで、昨年に比べ授業実施率が向上している。さらに授業時数を確保することにより学力の向上を図ってほしい。	

総 括 評 価 表

重点課題 2  
「豊かな人間性の育成と人権教育の推進」

重点目標	自 己 評 価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定		
(全体レベル)  一人一人を大切にし、互いに思いやり尊重する態度を育てるとともに、生命や人権を大切にしたい意欲を培い実践力を身につける。  (下位組織レベル) ①人権が尊重される学習活動づくり  ②教職員研修の充実	<b>評価指標</b> ①-1 人権学習ホームルーム活動満足度 80%をめざす。 ①-2 いじめ等に関するアンケートを学期に1回実施し、実態を把握し防止に努める。 ①-3 全学年で道徳教育のホームルーム活動を計画的におこなう。	<b>評価指標による達成度</b> ①-1 人権学習ホームルーム活動満足度 71%で昨年度の 46%より満足度はあがったが、さらに満足度を向上させるようにしたい。 ①-2 アンケート調査を1学期と2学期1回の合計2回実施した。3月に1回実施する予定である。 ①-3 道徳教育のホームルーム活動を年間1回実施した。	<b>評定</b> B	<b>総合評価</b> 評定 <b>B</b> (所見) 目標よりやや低いため今後の指導内容や指導方法を改善する必要がある。いじめ等に関するアンケートをおこなって実態を把握し防止に努めた。教職員対象の研修は満足度は比較的高い。校外の研修会は参加率が低く、実施期間を検討する必要がある。	○実施内容の工夫 ○体験的な学習方法の工夫 ○アンケート内容の検討 ○研修内容の検討と実施時期の検討
	<b>活動計画</b> ①-1 人権学習ホームルーム活動を行うにあたっては、人権教育課が学年に応じた資料を提示する。 ①-2 いじめなどに関するアンケートを実施し、実態把握に努め、適切な対応をおこなう。 ①-3 道徳教育のホームルーム活動を実施する際には全学年の統一の指導案を作成する。 ②-1 校外の研修会には、教職員が少なくとも年間1回以上参加するようにする。 ②-2 校内の研修会を年間2回以上実施する。 ②-3 特別支援教育の理解を深めるために、年間1回以上研修会を実施する。 ②-4 特別支援関係機関との連携・相談をはかり、ケース会議を年間2回以上実施する。	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 課からは毎回は提示することはできなかったが、必要に応じて提示をすることができた。 ①-2 アンケートを実施して実態把握に努め、適切な対応をおこなった。 ①-3 課から提示した全学年統一の指導案で道徳教育のホームルーム活動をおこなうことができた。 ②-1 校外の研修会参加率 52% ②-2 校内の研修会を2回実施した。 ②-3 研修会を1回実施した。 ②-4 必要に応じてケース会議を実施した。	<b>成果と課題</b> ①-1 必要な時には資料を提示したが、資料のやりとりをより綿密に行えば、効果的であると考ええる。 ①-2 アンケートを実施した結果実態把握をすることができたので今後とも継続していく必要がある。 ①-3 本年度は、上勝町の環境保全の取り組みを学び、自分自身の環境に負荷をかけない生活を見直す、というような環境教育を取り入れた教材を提示した。その結果、地元の取り組みを例に取り入れた教材にしたため興味を持って学習できた。 ②-1 全教職員に校外の研修会に参加できるように計画したが、他の出張や校務と重なることがあり、52%の参加率となった。 ②-2 予定どおり2回実施できた。 ②-3 個別に焦点をあてた研修会を実施し、充実した研修会であった。 ②-4 中学校の聞き取りなどをまとめたものや研修会で学んだことを生かしてケース会議を実施した。	<b>学校関係者の意見</b> 勝浦では「ビッグひな祭り」が定着し、その中で新たな交流が生まれている。不登校であった子どもにひな人形を送り、その話題で文通をし、結果的にその子どもは人と関わるようになるようになった。そういったことも教材になるのではないかと思う。  差別のない社会をつくるのが教育者の使命である。今後も引き続き、自らの資質・能力を高めるための研修を充実してほしい。	

総括評価表

重点課題 3  
「キャリア教育の推進と進路希望の実現」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価 総合評価		
(全体レベル)  望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせ、主体的に進路を選択する能力と態度を育てる。  (下位組織レベル)	<b>評価指標</b> ①-1 卒業時における生徒の進路決定率 95%以上をめざす。 ①-2 「勝浦塾」就業体験学習自己評価肯定率 80%以上、参加率 50%以上をめざす。 ②総求人数 250人以上をめざし、60社以上企業訪問を実施する。 ③取得資格数 1年生対象に実施する刈払機取扱作業教育の資格取得率 80%以上をめざす。 2年生、3年生対象に実施する農業技術検定3級の合格率 70%以上をめざす。	<b>評価指標による達成度</b> ①-1 卒業時における生徒の進路決定率 97% ①-2 「勝浦塾」就業体験学習自己評価肯定率 95%、参加率 41% ②総求人数 464 訪問企業数 75 ③ 1年生対象の刈払機取扱作業教育の資格取得率は 92.7%で、38名が資格を取得することができた。 2年生、3年生対象の農業技術検定は未受検に終わった。	<b>評定</b> B B A B <b>総合評価</b> B (所見) 早くから1人ひとりと面談をおこなうことにより生徒の進路決定の時期が早くなり、落ち着いて将来について考えることができるようになった。 就業体験の「勝浦塾」を通して進路について考える機会をもてた。 資格試験については、その重要性を広く生徒に知らせることができ、生徒たちも真剣に取得に向けて取り組むことができた。	B	○進路について考えさせる機会を多くつくる。  ○仕事を体験することの意義を伝え、勝浦塾への参加を呼びかける。
	<b>活動計画</b> ①-1 夏休み中に「勝浦塾」就業体験学習をおこない、受入事業所から評価と助言をもらう。9月に「勝浦塾」報告会を実施する。 ①-2 職業理解・職業体験のため分野別の職業ガイダンスを学期に1回実施する。 ②-1 進路指導課・3年学年団を中心に5、6月に企業を訪問し、新規企業の訪問を20%以上増やす。 ②-2 ホームルーム活動、授業等を通じての進路指導を年3回以上おこなう。 ③-1 関係機関と連携し、各種検定や資格を積極的に取得することができるように情報提供を行う。 ③-2 農業技術検定の合格率を向上させるための取組(補習)を実施する。	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 8月後半に16名の生徒が9つの企業において就業体験学習をおこなった。企業からは評価と助言をいただいた。9月25日には、1、2年生を対象に企業ごとに報告会を実施した。参加者は、昨年度の26%から41%へと増加した。 ①-2 1学期に2回、2、3学期に1回職業ガイダンスを実施した。職業講話・面接練習なども実施した。 ②-1 5、6月に管理職・進路指導課・3年生学年団が分担して、求人依頼をおこなった。21%の新規企業にも訪問した。 ②-2 各学期において進路指導についてのホームルーム活動や授業をおこなった。 ③-1 資格取得に対する意識付けを含め資料提供等を行い啓発に取り組んだ。関連産業に係る資格として国家検定3級園芸装飾技能検定に3名が合格した。 ③-2 勝浦校では2年生が農業技術検定を受検しているが、今年度は修学旅行と日程が重なり、受検ができず補習も実施しなかった。	<b>成果と課題</b> ①-1 就業体験を通じて、勤労観が育成された。1年生に向けて報告会を行ったことにより下級生の意識も高まった。今後は更に参加者が増えるようにホームルーム活動等を通じて呼びかけていきたい。 ①-2 職業ガイダンスを実施することにより、仕事を体験し各々の職業についてより深く知ることができた。 ②-1 新規企業の開拓により新しい企業からも求人をもたらしたが、県内企業はまだ厳しい面がある。引き続き企業との連携を深めていく必要がある。 ②-2 進路指導の授業を通じて、将来を考える機会ができた。今後更に充実させていきたい。 ③-1 関連産業と連携し資格取得に向けた取り組みが実施できた。今後、合格率向上に向けて取り組みを継続していきたい。 ③-2 来年度は農業科目において、基礎基本を重視したわかる授業を行い、農業技術検定の合格率の向上につなげていきたい。		

総括評価表

重点課題 4

「基本的生活習慣の確立と規範意識の育成」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定 総合評価		
(全体レベル)  愛情と信頼に満ちた人間関係を構築し、社会の一員としての責任と義務を自覚させるとともに、自律心を養い規範意識を醸成する。	①年間5回以上全校集会を実施し、頭髪・服装指導や特別指導防止に向けた生徒指導面での改善を図る。	①年間5回以上実施できた。服装、頭髪についても勝浦校で統一され、共通認識の下、公平な指導が徹底できた。	評定 B (所見) 今年度から制服も統一され、全職員が共通認識の下、生徒にも分かり易い指導が実施できた。ただ、継続的な改善指導が必要な生徒は存在しており、次年度以降も粘り強い指導が必要である。	B	○生徒指導規定を見直し、全職員が共通意識を持って指導を行うことができたので、次年度以降も共通認識を持ち、公平で統一された継続的な指導を実施する。 ○遅刻・無断欠席改善指導については、実施方法の改善や見直しを行い、より効果的な方法で実施する。
	②遅刻・無断欠席改善指導については、前年度から10%の削減を目指す。段階に応じて保護者面談等を実施する。	②遅刻無断欠席指導を毎月1回実施した。その結果前年と比較して10%削減は達成できなかった。次年度も継続して実施していきたい。	C 遅刻無断欠席改善指導を月1回実施した結果、授業遅刻については減少傾向がみられた。しかし学年により差異があり、また特定の生徒が繰り返し指導される例もあり、次年度以降も継続的な取り組みが必要である。 交通安全については、本年度重大事故は0件、その他軽微な事故も激減した。		
(下位組織レベル)  ①頭髪・服装指導の徹底  ②基本的生活習慣の育成	③校内、校外における交通安全講習会を年1回以上、運転技能向上講習会を年1回以上開催する。	③交通安全講習会を年間2回実施できた。小松島警察署、県警とも連携を図り原付実技講習を実施した。	評定 A 交通安全については、本年度重大事故は0件、その他軽微な事故も激減した。	B	○継続的に実施
③交通事故の防止と通学マナーの向上	活動計画 ①各学期の節目に全校集会をおこない、HR、学年、学校全体で共通意識を持ち連携を図りながら、効率的で公平な指導をおこなう。 ②-1朝のあいさつ運動や、日々の学校生活全般、農業教育をとおして生徒、保護者、教員間のコミュニケーションを密にし、生徒の基本的生活習慣の育成をおこなう。	活動計画の実施状況 ①計画通りに全校集会を実施し、全校統一した頭髪服装指導等の指導を実施できた。 ②-1朝のあいさつ運動の継続実施や、農業実習等での校内の樹木管理、美化活動を行い学習環境整備に努めた。また生徒、保護者との意見交換を積極的におこなった。	成果と課題 ①制服が統一され、計画的に全校集会、定期的な学年集会を実施することで、問題行動等の減少につながった。 ②-1朝のあいさつ運動については、地域の方からも理解が得られ本校の良い伝統になっている。生徒の学習環境の整備については、各施設が老朽化しており予算的に厳しい面もあるが、計画的に更新、整備を行っていききたい。		
	②-2月10回以上の生徒を対象に、学校全体で遅刻改善指導を実施する。	②-2毎月1回、遅刻改善指導を計画的に実施できた。	②-2遅刻改善指導を実施した結果、授業遅刻については減少傾向にあるが、学年により減少値に差異があり、次年度改善が必要である。	基本的生活習慣をつけることで生活リズムが確立される。継続指導をお願いしたい。	○遅刻・無断欠席改善指導の方法について改善して実施する。
	③-1バス通学状況の把握と改善指導を常時行い、バス会社や地域、家庭と連携した指導を実施する。	③-1各学期に1回、バス乗車指導するとともに、朝の校門指導でバス運転手と情報交換をおこないマナー向上に努めた。	③-1昨年と比較してバスのマナーは向上しているが、本年度もバス会社からの改善要望があったため、次年度も継続指導が必要である。	公共のモラルを教える良い機会である。運転手の方ともコミュニケーションをとって、ただ通学の手段というだけでなく温かい心の交流も望みたい。(何年か前にはそういう例があった。)また自転車通学も継続指導してほしい。	○バス会社、地域の方々と協力体制をとり継続実施する。
	③-2駐輪場の整理・整頓、年度当初の車体検査、校内外の交通安全教室を実施し、交通規範意識の向上を図る。	③-2生活交通委員による駐輪場、バス停の清掃活動、年2回の交通安全講習会を実施した。	③-2昨年度と比較して交通事故件数は激減したが、次年度は更に減少できるように指導を継続していきたい。		○次年度も本年度の方式で継続実施
	③-3全てのバイク通学生徒は年1回以上2輪車実技安全講習を実施し、運転技能向上と、交通安全の規範意識を高める。	③-3県交通機動隊の実技指導を1回、小松島警察署の実技指導を1回実施した。	③-2外部講師による実技指導や地域の交通安全運動参加により、生徒の交通安全意識が向上した。次年度も継続実施していきたい。		○次年度も本年度の方式で継続実施

総括評価表

重点課題 5  
「特別活動の活性化と環境教育の推進」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価（評定）	今後の改善方策	
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定			
(全体レベル)  創造的な活動を通して集団、社会の一員としての自覚を深め、よりよい生活、環境づくりに主体的に取り組む意欲と実践力を育てる。  (下位組織レベル) ①生徒会活動・HR活動の活性化 ②部活動の充実・活性化 ③環境・エネルギー教育の充実	評価指標 ①-1 生徒の特別活動満足度 80 %をめざす。	評価指標による達成度 ①-1 体育祭・文化祭・収穫祭の平均満足度は 90 %を超えることができた。	評定 A	総合評価 評定 <b>B</b> (所見) 学校行事の面においては、生徒会活動も盛んになり満足度も高いため一定の成果が得られたと思われる。今年、企画・立案の段階から具体的な案作りまでにもたついた感があり最終案の提示が遅れ、わかりにくい面があったのが大きな反省点である。 部活動については、1年生を全員入部とし加入率の増加を図ったが、目標には達せず、より一層の工夫が求められる。 環境面については、ゴミの分別の徹底を図るためにゴミ箱にマークをつける工夫を行い、一定の成果もあった。	B	○より早い特活課と農業科とのすり合わせや行事の職員会議への提案 ○1年生の全員入部は引き続き継続する。 ○グラウンドが広がったので、グラウンドを利用した部活動の取り組みを模索する。 ○分別の方法の改善が必要。特にペットボトル対策を工夫する。
	①-2 朝のあいさつ運動を毎日実施し、平均参加者数 8 名をめざす。	①-2 平均参加者は 8.2 名（12 月末日まで）で目標は超えた。	B			
	①-3 農業祭における来場者数 200 名をめざす。	①-3 収穫祭の来場者数は、600 名を超え、満足できる数字であった。	A			
	①-4 クラス別・学年別集会を 5 回以上実施する。	①-4 クラス別・学年別集会を 5 回実施したが、内容は今後検討が必要である。	B			
	①-5 生徒会行事の度に学校 HP に掲載し、情報発信に努める。	①-5 学校ホームページに毎回掲載したが、今後より内容を充実させたい。	B			
	② 部活動加入率 70 %をめざす。（1年生は全員加入のため）	② 部活動加入率 62 %で、昨年の 50 %は超えたが、目標には届かなかった。	C			
	③ ゴミ箱の設置方法を工夫し、ゴミの分別の徹底を図る。	③ 分別が徹底できていない面も見られたが、一定の成果もあった。	B			
	活動計画	活動計画の実施状況	成果と課題	学校関係者の意見		
	①-1 本校の伝統となっている挨拶運動を引き続き実施する。参加者を増やすために、生徒会や生活委員会に強く呼びかけると共に、有志を募る活動を行う。	①-1 毎日生徒があいさつ運動に参加した。しかし生徒会や生活委員会のメンバーのみで、全校的な広がりは見られなかった。	①-1 学校近隣の住民の方々からも認知を受けるようになってきたが、冬場や雨天時の参加者、生徒会以外の参加者の増加をほかりたい。	生徒の元気なあいさつや活発な活動は地域にも力を与える。今後、より多くの生徒に体験させ自信をつけさせてほしい。	○生徒会以外の生徒が参加しやすいような雰囲気醸成が必要。	
	①-2 生徒による新しい活動の企画・運営が図れるよう指導する。	①-2 収穫祭において、学年バザーや外部団体の新しいブースも設営され、好評であった。	①-2 新しい企画もあったが、内容の精選も必要である。		○生徒会を中心に積極的に考えたい。	
①-3 学校行事への主体的な参画が図れるよう指導する。	①-3 学年集会を 5 回実施し、主体的に取り組む環境を設定した。	①-3 学年やクラスで取り組み易くなるようにした。定着している感がある。		○時間数の増加		
②-1 自然科学部は、農業の授業とも絡ませ、より地域に出て行きやすくするために、全員参加の部活動の形態を取らせる。	②-1 部活動として、農業関係の取り組みがやりやすくなった。	②-1 参加者が固定化されている。より多くの生徒が参加しやすいようにしたい。	生徒の放課後の使い方が多様になってきているが、部活動を通して忍耐力やコミュニケーション力、責任感などを培ってほしい。	○農業科とのより綿密な連携		
②-2 本校との合同練習を盛んにすると共に、地域の中学校に働きかけ、希望者を増やす活動を行う。	②-2 テニス部は本校との合同練習等盛んに交流している。中学校との取り組みはほとんどできていない。	②-2 テニス部は交流することによりレベルが上がっている。中学校とは、まず顧問同士の交流が必要である。	必要ならば、民芸部の練習に人形会館の使用も可能である。	○本校や中学校への積極的な働きかけ		
②-3 部活動顧問会議を学期に 1 回開き、意見交換を行う。	②-3 顧問会議は盛んにはできなかった。	②-3 より多くしていきたい。		○場を多く持てるよう努力する。		
②-4 管理職への報告・連絡・相談の徹底を図る。	②-3 管理職への報告・連絡・相談が不十分な場面があった。	②-4 より徹底したい。		○より心掛ける。		
③ 毎日の清掃時には職員を配置し、ゴミの分別を徹底させる。	③ 職員配置はできたが、ゴミ分別はまだ徹底できていない。	③ 以前と比較すれば少しずつ改善はしている。より徹底したい。	環境問題に、より関心をもたせてほしい。	○分別が徹底しやすい方策の模索		

総括評価表

重点課題 6

「学校の活性化、産業教育の振興と新しい学校づくり」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策		
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定 総合評価				
(全体レベル)  基礎・基本の定着を図りこれまでの教育を創造し、地域に根ざした活力と魅力ある学校づくりを推進する。  (下位組織レベル)	<u>評価指標</u> ①校外実習活動，交流学习の実施数を年間10回以上行う。 ②年間を通して野菜・果樹・草花等を中心に農産物の生産と販売をおこなう。 ③ホームページの更新を月平均5回以上おこなう。	<u>評価指標による達成度</u> ① 校外実習活動（イベント3回）・交流学习12回（15回） ② 年間を通して野菜・果樹・草花等を中心に農産物の生産と販売をおこなうことができた。生産収入も増額となった。 ③ ホームページの更新 月平均（9回）	評定 A A A 総合評価 A (所見) 分校となって3年目に入るが地域に根ざした学校として地域貢献，環境保全活動や新しい時代に対応した農業教育を実践してきた。今後も，地域に根ざした学校として活動していきたい。	A	○次年度も継続実施		
	<u>活動計画</u> ①本校教育の地域への還元 ②農場経営の活性化 ③広報活動の充実	<u>活動計画の実施状況</u> ①-1 ひのみね支援学校1回（花壇作り・草花苗の定植），生比奈小学校5回（サツマイモの定植のための圃場整備や植え付け，トマトの鉢植え），上勝中学校1回（草花苗の挿し木），勝浦中学校1回（草花の挿し木・寄せ植え・無菌操作・トマト栽培について），新野高校と学校間連携4回（加茂谷中学校へ災害支援活動として花壇作り・地球温暖化防止等）（計12回） ①-2 勝浦病院（庭園管理・緑のカーテン栽培20回），喜楽苑（庭園管理2回）（計22回） ①-3 勝浦病院の庭園管理・緑のカーテン栽培のため，ゴーヤ苗・パンジー苗・ハボタン苗を提供した ①-4 ジンリョウユリやリンドウ等希少植物の苗の提供，植え付け，観察等増殖活動をおこなう。（計5回） ①-5 田植え，稲刈り等へ参加した。（計2回） ②-1 草花苗やシクラメン，メロンやトマト・露地野菜，スダチや渋柿・チャンドラポメロなど多くの農産物を小学校や中学校・収穫祭・農産物販売所「よってネ市」等で販売し喜んでいただいた。（計24品目） ②-2 野菜・果樹・草花等多くの農産物の種類と数量を販売することができた。 ③-1 記事の内容や見やすさを考えて学校の様子や生徒の活動状況等を紹介した。 ③-2 保護者に各行事等についての案内や連絡をしたりホームページでの掲載をしたりして情報の発信をおこなうことができた。	<u>成果と課題</u> ①-1~3 日頃学習した農業に関する知識や技術をいかして様々な活動に取り組んできた。交流学习や学校間連携では，農業についての知識や技術を支援することで自らの学習意欲が喚起され自信となった。また，体験をとおしてコミュニケーション能力の向上や勝浦校の取り組みについて理解してもらう良い機会となった。今後も生徒の自主性や主体性を育てるように取り組むことが必要である。 ①-4~5 バイオテクノロジーを活用し，絶滅危惧種や希少植物の保護，保全活動ができた。しかし，現地への移動方法や資材の購入等の予算捻出が課題である。 ②-1~2 地域に根ざした学校として，農業高校として生産から加工・販売に取り組んできた。地域の農産物及びその販売状況についても学習することができた。新鮮で市場価格よりも安く安全・安心で珍しい農産物が購入できると地域の方々からも好評であった。施設・設備の老朽化における整備と有効利用，狭小な圃場の有効活用を更に検討していく必要がある。 ③-1~2 ホームページの掲載により学校と地域社会を繋ぐ大きな接点となった。ホームページの掲載を更に勧めたい。			<u>学校関係者の意見</u> 町内で幼少時から見知っている子どもたちが，勝浦校で活躍している姿をよく見る。大変誇らしく，先生方が一人一人の生徒を大切に育てて大きく成長させてくれていることがよくわかる。 花づくりや果樹・野菜づくりを通して農業の発展に貢献している勝浦校の存在は大きく，地域に根ざした学校として今後も意欲のある生徒を獲得してほしい。 また，日ごろの学習活動の中で得た知識や技術が，就職や「生きがい」につながってほしいと願う。 限られた施設・設備を有効に利用し，より工夫して教育効果を高めてほしい。 町の広報活動等を利用して，情報発信をどんどんやってほしい。	○校外実習活動，交流学习の継続と実施。生徒の自主性・主体性の育成 ○校外での活動を行うための予算確保 ○施設・設備の整備と有効活用の推進 ○研究機関や農家等の見学や研修。そのための予算確保 ○情報発信と宣伝活動の充実